



# 坂井小学校だより

## 回 覧

平成 30 年 7 月 24 日

No.5 校長 窪田尚幸

登校日数 75 日。1 学期も本日で終了します。この間、色々な面で学校をお支えいただき誠にありがとうございました。

校舎の前庭の黄色のマリーゴールドや赤のサルビアもきれいに咲き始めています。いよいよ明日から夏休みになります。川や海・湖の水の事故や交通事故などに十分気を付けて、決まりよく安全で楽しい夏休みになるよう、よろしくお願いいたします。

尚、夏休み中のお盆の 8 / 13 (月) ~ 16 (木) の間、学校は閉庁になります。何かありましたら筑北村教育委員会 (67-1161) へ連絡してください。緊急な事案は、担任への連絡も結構です。



## ◆1 学期終業式 校長講話より

### 「校長室の『青い目の人形』の話」

今日で 1 学期が終わります。みなさん、よく頑張って過ごしたと思います。いよいよ明日から夏休みになります。事故などに十分気を付けて、決まりよく安全で楽しい夏休みにしてください。

さて、1 学期最後の窪田校長の話は、これです。そう、校長室にあった「青い目の人形」の話です。

まずは、この人形のことではなく一般的に小学校、幼稚園に保管されていた「青い目の人形」の話をしていきます。

昭和 2 年 (1927 年)、今から 91 年前のことです。世界の平和を子どもたちに託して、約 12000 体の「フレンドシップ・ドール」友情の人形 (青い目の人形) がアメリカからやってきました。長野県にも 289 体がやってきました。贈ってくださったのは、日本でキリスト教を広めたギュリック博士とアメリカの皆さんです。その後、昭和 16 年 ~ 20 年 (1941 ~ 45 年)、日本はアメリカと戦争をし、友情の人形は敵国の物として焼かれたり壊されたりしたのです。

当時、友情の人形ばかりかアメリカや西洋の人形は、大変な目に遭ったそうです。偶然ですが、先月、新聞にこんな記事がありました。

### 「校庭に積み上げられた西洋人形」

主婦 大竹洋子 (福島県 81 才)

これは西洋人形受難の話です。私は福島県若松市 (現会津若松市) の謹教国民学校に通っていました。女子だけの学校でした。

たしか 2 年生の頃、終戦の 1 年前のことだったと思います。西洋人形を持っている人は学校に持ってくるよう、先生に言われました。私は持っていませんでしたので、気にも留めずに登校いたしました。

全校児童が集められたのは、校庭です。片隅に人形が積み上げられて、小さな山をなしていました。私たちは、その周りを遠巻きに取り囲み、若い男の先生が人形の山を竹やりで突くのを見せられ、さらに、火をつけて燃やすのを見せられました。誰もが無言でした。

子供心にも、なんて残酷なことをするのだろうとおもったものです。理不尽としか言いようがありません。あの光景にすべてが、幼い女の子にとって忘れがたい戦争の記憶となりました。

このような時代の中で、ようやく戦争が終わって、かくされていた人形が発見されました。現在、長野県に 29 体ある友情人形は、日本とアメリカの平和の使者として大切にされています。

戦争一色の時代に多くの外国からの人形が悲惨な目に遭った中で、「世界の平和は子どもから」の想いや「人形には罪はない」の信念を貫いて、残された人形だったのです。



さて、この坂井小の青い目の人形ですが、実は今から21年前の平成9年にこの新しい校舎を造るに当たり、前の校舎を整理をしていた長田義之校長先生が、理科室の棚から、この人形の入っている木箱を見つけたのです。そして、その後小池一秀校長先生、山本豊校長先生の時も調査をしましたが、アメリカから贈られてきた友情の人形かどうかははっきりしないまま、今日まで至っています。当時、坂井小学校の6年生だった子は、今では103才になられています。みなさんも、是非、地域の方に聞いてください。もし、この人形に関わる情報がありましたら、学校まで知らせてほしいのです。

この人形が、確かに友情の人形かどうか証明できる証言や資料があるといいのです。きっと今回の調査で分からなければ、永久に分からないままになってしまうと思います。

ただ、はっきりと分からなくても、この人形が、友情の人形ではないとしても、90年以上もこの坂井小に保管されていたことは間違いありません。前の校舎の時に校長室や廊下に展示してあった事は確かなようです。この事実からも、世界平和を

求める坂井の人々の想いがこの人形に託されてきたことは間違いないのではと思います。

どの国とも戦争をせずに、仲良くしていられる世界にしたいという願いや祈りを、この人形と共に大切にしていけることができる坂井っ子になってほしいと坂井小学校長として心から思います。

## ◆「はやぶさ式思考法」で元気を！

先月末、はやぶさ2が小惑星リュウグウに到着しました。日本の科学技術の誇るべき「夢」の実現の一つです。先月、関東甲信越地区小学校長会長野大会（H30.6.7~8）で「はやぶさ」プロジェクトマネージャーでISAS/JAXA 教授・シニアフェローの川口淳一郎先生の「やれる理由こそが着想を生む。『はやぶさ式思考法』」の講演を聞くことができました。元気の出る楽しいお話でした。印象に残った言葉がたくさんありましたので、その一部を紹介させていただきます。

- ・人は思い込みからくる誤解、勘違いを常にするもの。
- ・そんな機械（はやぶさ）を作った国のためになるのか、いや、この機械で守るべき価値ある国を作ることができるのだ。
- ・「夢で飯が食えるか」と言われるが、「夢も見ないで飯が食えるか」だ。飯を食えるようにするために、夢を見るんだ。
- ・減点法では創造は生まれない
- ・才能は有限、努力は無限。
- ・人の振り見て我が振り直す必要はない。
- ・思いがけない発見、それが科学であり芸術だ。
- ・自信とは人から与えられるものではない。
- ・「3日坊主のすすめ」2日も頑張った、1日でやっってはだめ、2日はやる、拙速はいけない。
- ・人材育成は非凡か変人を育てるべし。
- ・教育はアートであるべき。
- ・基礎からではなく、応用から。
- ・自信と誇りをもつ、世界一、NO.1を目指すのではない ONLY 1を目指す、世界初を目指す。
- ・椅子の脚は3本あればいいのです。
- ・「やれる理由を見つけて挑戦しない限り、成果は得られない。」

こんな考え方、思考法をしてみるといいですね。マイナス思考でなく、プラス思考で。私の好きな相田みつをの言葉で、一昨年度の卒業生に贈った「夢はでっかく 根はふかく」にも通じる大切な言葉や考え方のように思います。教育はアートだ！と言えるように子どもの個性と先生たちの個性がぶつかり合い、混じり合い、つながり合い、紡ぎ合う坂井小学校にしたいです。



\* 2005年夏に小惑星イトカワに到達し、サンプル採集を試みた後、2010年6月13日、60億 kmの旅を終え、地球に大気圏再突入した。サンプルリターンに世界で初めて成功した。